会議記録

附属機関の名称	熊谷市自治基本条例審議会
開催日時	平成２９年４月２１日（金）１４時００分から１５時３０分まで
開催場所	熊谷市立商工会館　２階３号室
出席者	【委員】計６名 山口雅功会長、依田悦代副会長、出浦尚明委員 小谷野操男委員、上村悦子委員、安藤君子委員 【事務局】計５名 長谷川部長、髙橋課長、長谷川副課長、野村主査、松本主事 計１１名
傍聴人	０人
問い合わせ先（所管課）	総合政策部企画課（市役所本庁舎３階） 電話　０４８－５２４－１１１１（内線２２８）
内容	**１　開　会** ⑴　熊谷市附属機関の会議の公開に関する要綱に基づき、会議の概要を公開することの承認 ⑵　会議資料の確認 **２　委嘱状の交付** **３　市長あいさつ** **４　委員の紹介** **５　会長、副会長の選出（会長、副会長挨拶）** **６　諮問** 市長から会長へ諮問書を提出 **７　議事** 熊谷市自治基本条例審議会条例第６条第１項の規定に基づき、山口会長が議長となり進行

	(1)　自治基本条例の一部改正について （資料：自治基本条例改正案） 事務局から資料について説明 ①　自治基本条例の改正案について （委員）10 年という節目において、社会情勢の変化等に対応した改正点はないのか。 （事務局）今回の任期の中で、全体的な変更や見直しの審議をさせていただきたいと考えている。 ⇒議事 1 について、改正の趣旨・内容について了承いただく。 条文の形式や文言等については、法制執務の担当部署と事務局との協議に一任してもらうことであわせて了承いただいた。 **(2)　その他** ①　自治基本条例について （委員）現行の自治基本条例を活用して不都合があったことはないのか。 （事務局）特に不都合はなかったと思うが、やはり 10 年という年月が経っていることもあり、文言等の改正が必要であると考えている。 （委員）これからを担う、若い人たちの意見も聞いて取り入れたいと思う。 （事務局）次回の審議会開催前に、2 名程度公募をかけて委員を追加したいと考えている。なるべく若い方に入っていただけるようにしたい。 （委員）10 年経過しても、自治の大きな原則は変わらないと思っている。しかし、評価指標は 10 年経ってしまうと時代にそぐわないものとなっているものもある。評価指標が新たに設置されるのはいつ頃になるのか。 （事務局）新総合振興計画は昨年度と本年度の 2 ヵ年をかけて策定している。現在評価指標等も庁内で全体的な見直しを行っているので、また進行状況等ご報告させていただければと思う。 （委員）ただ公募するだけでなく、若い人たちだけの自治に関するフォーラム等の意見交換会を開いて、その中から自治基本条例に活かすとか。機会創出すれば関心のある若い人も出てくるのでは。 ②　自治活動について （委員）自治基本条例に掲げられている市民・行政それぞれの役割を、きちんと果たせられれば、まちにとって大きな一歩になると思っている。何か市としての大きなビジョンを総合振興計画で示してもらって、市民はどうすればいいのか、行政は何をするのか、具体的なビジョンがほしいと思う。 （委員）熊谷市でも先日、スマートフォンを使って、道路の危険な箇所等を報告できるようになった。これなら誰もが参加できる。知らないところで色々な参加の形がうまれている。自治基本条例第 12 条によると職

	員は積極的に地域活動に参加することとしている。強制ではなく、積極的に活動している職員を誉めようという取組があってもいいのではないかと思う。 ③　人口減少について （委員）熊谷市は10年位前に、20万都市になったところ。なぜ人口がどんどん減ってしまうのか。 （事務局）日本全国的なことでいうと、結婚しない人が増え、子供を産む人が少なくなってきているということが大きな原因である。熊谷市でいうと、都会すぎず、田舎すぎずという熊谷市の良さがあまりわかってもらえていないのかもしれない。人口減少は熊谷市に限ったことではないが、そういったことを踏まえてなるべく、減り方を少なくしようと様々な施策に取組んでいる。 （委員）都内にすぐ行けるのは、とても魅力的だと思う。それなのに緑が多くて自然体験ができるというのをもっと売り出していけば、熊谷の良さが伝わり、熊谷に来てくれる人も増えるのではないか。 （委員）人口が少なくなっていくという現状を、総合振興計画の中でも考えていかなければいけないと思う。 （委員）今年のゴールデンウィークに熊谷市としてのイベントはあるか。他の市町村ではイベントがあるところが多い。こういったことがあると、熊谷市ではなく他のところへ行ってしまう。熊谷市はイベントが昔のままな事が多い。市として盛り上がりがない要因ではないか。 ④　自治会等の組織について （委員）自治会や校区連絡会、長寿クラブなど組織がいっぱいあって、よくわからなくなっている。少し整理をした方が良い。 （事務局）段々と校区連絡会にまとめていこうという取組が、一部で始まっている。先行している校区では地域の課題を整理し、計画をつくってもらい、そこに市が補助をするというような取組が始まっている。段々と集約をして地域の課題を地域で考えてもらうという取組をしていきたい。 （委員）防犯灯の整備の補助金がワールドカップまでの３年間ということで今年度始まったようだが、今は色々な組織があって、誰がどのように申請し誰が管理するのかわからなくなってきている。防犯灯がないところは暗くて、夜遅くに子供が歩いていると危ないのではないかと不安になる。防犯灯はやはり市が管理してほしい。例えば、防犯灯設置の説得に市の職員も一緒に回ってくれれば、とても心強い。そういったことが協働なのではないか。 （事務局）防犯灯は地域の問題なので、自治会で管理をしてもらいたいの

	だが、問題は商店街が管理をしている街路灯。昔は商店街が賑わい、力もあって管理をしてもらっていたのだが、今は商店街も衰退し、組織が弱体化して管理が難しくなってきてしまった。まちなかにある古い街路灯をなんとかしなければいけないということもあり、高い補助率でもう少し商店街に頑張ってもらおうということで始めたもの。ワールドカップは１つの区切りであるので、相談員等を置きながら設置を進めたいと考えている。 **４　閉　会**

※　この会議記録は、熊谷市附属機関の会議の公開に関する要綱第１０条に規定する様式第２号により、作成しています。